

お元気ですか

2023年7月 201号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐<https://www.yokohamashakyu.jp/siencenter/>
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター 🔍 検索

「R4事業報告、R5事業計画」
「連絡協共催研修」
「重心特別部会」「重心懇談会」
はHPに掲載しています



磯子区の生活介護事業所、いそご青い鳥(以下、事業所)では、昨年近隣の汐見台小学校とコラボしてひまわりを育てる「Seed Project」を行いました。事業所から寄付した種を生徒さんが植えて10cm~15cm位まで育て、最後は事業所前の花壇に移植。きれいに花を咲かせました。



事業所から小学校に種を寄付
苗を育てました

大きくなってきたので、
利用者さんと一緒に
学校へ取りに行き、
事業所前の花壇に植え替え



大きく育った
満開のひまわり



事業所の
紹介も
一緒に掲示しました!



フレームは、
事業所の利用者さんが
作りました!

汐見台小学校とのコラボ事業「Seed Project」で、生徒さんが描いたひまわりの絵が職員室前に飾られています。

その他にも様々な取り組みを進めています…詳細は次ページへ!

いそご青い鳥「地域連携室」始動

ちょうどコロナ禍が始まった時期、事業所に「地域連携室」が立ち上がりました。まず、始めたことは、近隣の汐見台小学校へ除菌水（電解次亜水）を提供すること。事業所設立当初から、汐見台小学校との交流で地域の祭りに向けての盆踊りの合同練習や地域合同防災訓練参加等、小学校の先生と繋がりを持っていたことがきっかけでした。

その翌年、事業所が“こども110番の家”になっていることから、「町探検の授業で生徒に110番について説明をしてほしい」と、先生から依頼がありました。

このお話を受けた職員の鈴木さんは、事業所のことを知ってもらえる機会になるのではと思い、事業所の1日のスケジュール紹介と利用者さんが普段行っている作業（アルミ缶潰し、ビーズ通し）を体験してもらう時間を設けました。

また、自主製品の亚克力たわしやマットにも触れてもらったそうです。



小学2年生の町探検の青空授業。

当日は、利用者さんも一緒に生徒さん達の前に立ちました。

同年の夏、町探検の授業を受けた生徒さんと「Seed Project」を開始。

秋には、個別支援学級の生徒さんが描いたハロウィンカードを事業所の前に飾りつけました。



ハロウィンカード

小学校との関わりの他、地域の防災に関する会議への参加、災害時に利用できる雨水タンクの整備等、地域の一員として防災に関する取組みを始めています。また、事業所周辺は住宅街で夜は暗くなってしまうため、防犯対策として事業所周囲のフェンスにライトの設置もおこなう等、地域に目を向けることを意識して活動しているそうです。

コロナ禍でも工夫して地域との関わりを広げている、いそご青い鳥。開設当初から地域との関わりを大切にしてきたことが今に繋がっていると、鈴木さんはお話されていました。今後の活動に期待が膨らみます。



事業所の周囲は、四季折々の花で彩られています。通りかかった方がカメラを向けていました。



地域の方々と顔の見える関係を築いています。日頃の積み重ねによって、「いそご青い鳥」を地域に認識してもらい、災害時等に地域の方と助け合える関係を作っていければと思っています。

今後は、もっと利用者さんが関わられるよう活動を広げていきたいです。



地域連携室長の鈴木さん

フォトグラファー 後藤 京子 さん 障がいのあるお子さんと そのご家族の写真展 を開催しました

- 横浜市役所
1月25日(水)～31日(火)
- 新都市プラザ
(そごう横浜店 地下2階 正面入口前)
3月3日(金)・4日(土)



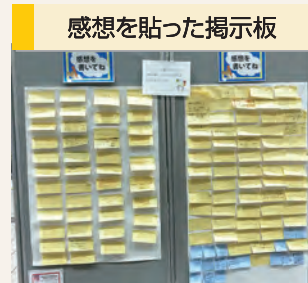
新都市プラザの展示では、家族のかけがえのない幸せの瞬間を撮影した写真(家族からのメッセージ付)を中心に、市内の障害者作業所が作成したアート作品も展示しました。また、来場者へのアンケートを実施し、寄せられたコメント(付箋)を場内に掲示しました。

2日間の見学者数は約1,000名。アンケートでは184名の方からご意見をいただきました。写真展の感想は8割以上の方が「とてもよい」との評価でした。横浜市中心部のにぎやかな公共通路で開催し、行政・福祉関係者のみならず多くの市民の方がご来場いただきました。

この写真展は、幸せへの喜びを秘蔵とし、行う定例事業(ニコラ)で行く。入場無料。2023年展示場所・期間。横浜市役所 1F 観音スペースB 1/25 ▶ 1/31 9時～17時。1/25 12時～1/31 16時。新都市プラザ そごう横浜店 地下2階 正面入口前 3/3 ▶ 3/4 12時～17時。10時～16時。自然とあふれる幸せの瞬間。横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター (TEL) 045-681-1211 (FAX) 045-680-1550 (住所) 横浜市健康福祉局

家族の絆を感じた
笑顔がステキ
障害のある、なしは関係ない、みな同じなんだ
授かった命の大切さ

など、様々な感想が寄せられました。



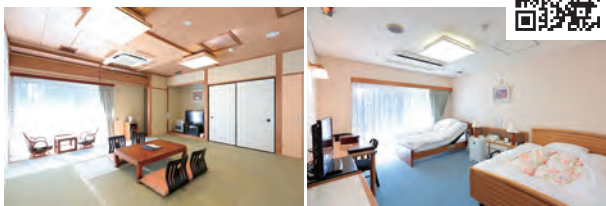
令和6年3月にも新都市プラザにて写真展を開催予定です。皆さま、ぜひ会場に足をお運びください。

なお、この写真展は横浜市社会福祉協議会に寄せられた寄付を財源に開催しています。ホームページにも当日の様子を掲載していますので、ぜひご覧ください。



あゆみ荘だより

お問い合わせ ☎ 045-941-8383



障害者研修保養センター横浜あゆみ荘は「障害のある方やそのご家族が安心して宿泊でき、ほっと一息できる場所が欲しい」という声を受け、昭和59(1984)年11月に開所しました。今年で開設39年目を迎えます。これまでに150万人以上の方にご利用いただいております。

あゆみ荘には宿泊や日帰り用の客室や大小の浴室、勉強会やスポーツ等でご利用いただける研修室・機能回復訓練室(体育館)・児童遊戯室(プレイルーム)等を備えております。

あゆみ荘ホームページでは、動画でも更に詳しく説明していますので、ぜひご覧ください。



福祉バス「あおぞら」 で出掛けよう

福祉バス
利用受付
窓口

障害者支援センター
☎ 045-201-2049
☎ 045-306-9911



障害のある人の外出・行楽を支援するため、市内の障害当事者団体・施設等に福祉バス「あおぞら」の貸出を行っています。バスは大型バス4台(リフト付き2台含む)、小型リフト付バス1台です。今年度より「宮浦観光バス」が運行を担当します。

団体会員の交流会としての研修や旅行、施設のレクリエーション、リハビリ教室の外出訓練等に、ぜひご利用ください。





ぼくのわたしのすきなこと

地域訓練会「麦の会」 保育部訓練会(てんとう虫グループ)協力者会

～ 令和5年2月の「感謝の集い」にて、長年の活動が表彰されました ～

神奈川県で活動する地域訓練会「麦の会」保育部の協力者として、約40年にわたり、保育部の子どもたちに寄り添い、コロナ禍においても休むことなく、活動を工夫し支えてくれたことから表彰されました。

今回は4名の協力者からお話を伺いました。てんとう虫グループは主に2、3歳の子どもたちが活動しています。協力者によっては、活動を始めた当初は子どもたちにどう関わって良いか、戸惑うことや緊張してしまうこともあったそうです。うまく関われなくて、落ち込んだりすることがあっても、子どもたちと接する中で、笑顔を見せてくれるようになったり、訓練会を卒会しても、まちで見かけて声をかけてくれたり、成長した姿を見ることが協力者の活動の力になっているようでした。

時には、「かかわりが上手くいかない」、「こうした方

が良かったのではないかと」思い悩むことがあるそうです。そんな時は、活動後に行われる協力者のミーティングで迷いや悩みを共感してもらったり、アドバイスをもらったりすることで、次の活動へとつながり、協力者同士が大切な仲間になっていくそうです。

「親子で訓練会に参加した当初は、笑顔もなく落ち込んでいることが多かったけれど、徐々にお母さんの笑顔が増え、お母さん同士の話も弾むようになっていくのを見るのが嬉しい。」と笑顔でお話されていました。



お話を伺った、協力者の皆様

NPO法人 ^{あらた}新 研修推進部会による職員研修会が開催されました



2月22日(木)、中区本牧活動ホームにて「新」職員全員を対象とした研修会が行われました。今回は、「新」発足の礎となった親の会や訓練会の成り立ちと、中区本牧活動ホーム・磯子区障害者地域活動ホームの設立について、活動にかかわった三人の親御さんを中心にお話をうかがいました。



昭和40年代、障害児のいる家庭で「仲間が欲しい」「早期療育の場がほしい」といった声上がり、肢体不自由児父母の会や地域訓練会が立ちあがりました。その後、「こどもの療育・親の学び・地域への啓発」の場として、訓練会は市内各地に広がっていきました。同じ頃、学校卒業後の活動の場として、地域作業所も立ち上げられていきました。昭和55年から横浜市内各区で障害者地域活動ホームの建設がはじまり、中区、磯子区ともに、活動ホーム設立に向けて動き始めました。まずは建設委員会

をつくり、建設費の一部をまかなうために企業訪問をし、寄附を募るなど、日夜奔走したとのこと。現在はNPO法人「なか」(中区)とNPO法人「はま」(磯子区)が連結連合し、NPO法人「新」となり、「まちの中で自分らしく生きたい」を法人の理念としているとのお話がありました。

今でこそ、あたりまえにある障害者地域活動ホームや作業所、地域訓練会ですが、障害児・者や家族の思いと活動の積み重ねによって作られてきました。研修に参加された職員たちは、その歴史の重みをかみしめているようでした。

